

心の弱さ、愚かさ、苦悩・・・ ありのままを受け容れ、 私は変わる。

筑豊教会 柴田安希子さん

柴田安希子さんは、自分の心の弱さから子どもたちを悲しませ、心を傷つけてきた過去を悔やんでいる。夫、3人の息子と暮らしていた15年前、夫に誘われてはじめたパチンコにのめり込み、生活費がなくなると消費者金融から借金を繰り返す。結果、自己破産となるものの、心は変わらず、性懲りもなくパチンコに興じ続け、今度は知人から借金をするという悪循環の日々。そんな折、料金滞納で家の電気が止められてしまった。蒸し暑い9月上旬の夜、自然と家族が居間に集まり、語りあった。息子たちの悲しみ、切なる声が胸に染み入る。問題を直視せず、楽なほうに逃げて生きてきた愚かな自分に気づく。ありのままを受け容れることで、安希子さんの目が、心が開かれた。今、家族の弁当を毎日朝5時に起きてつくる。そんな普通の生活を営めることが喜びとなった。「今度こそ私は生まれ変わる」安希子さんは固く誓っている。



苦は自らつくる

思いどおりにならないことがあると、私たちは悩んだり苦しんだりします。そんなとき、多くの場合、私たちはその原因を自分以外のものせいにして、ますます苦悩を深めています。あの人のせいであろうとなつたとか、あれさえなければよかったのに……と考え、苦の原因を見失ってしまうのです。法華経では、明快に「諸苦の所因は貪欲これ本なり」と説き、必要以上に欲する心を苦の要因としています。また、遺教経では、より単刀直入に「多欲の人は利を求むること多きがゆえに苦悩もまた多し」と説いています。どうやら、苦悩は他からもたらされるのではなく、じつは自分の内側から生まれてくるようです。苦しんでいるとき、私たちは多欲で執着がある。端的には、それが仏教の答えといえるでしょう。感謝を忘れず、欲をほどほどに抑えてとらわれやこだわりをもたないことが、心身ともに楽に生きる秘訣です。同時に、楽もまた自分の心がつくることも承知しておきましょう。

立正佼成会